

芸能後押し 虎頭贈る

活用願う青年会へ 釜石出身者から譲渡

舞の縁 鶴住居で一つに

埼玉の改田さん (和太鼓奏者)



釜石市鶴住居町の鶴住居青年会（土沢豪紀会長、会員46人）に、埼玉県川越市の和太鼓奏者、改田（かいでん）雅典さん（41）が釜石市出身の知人から譲り受け、芸能活動で使っていた沿岸の郷土芸能「虎舞」の虎頭が届いた。同市で作られた虎頭で、改田さんが「郷土芸能も復活し始めており、地元で生かしてほしい」と譲り先を探していた。縁と重なり「地元」に戻った虎頭。同青年会の会員らは「感謝し、大切に使いたい」と胸を熱くする。



鶴住居青年会に届いた虎頭を手にする佐々木実さん

虎頭は縦、横、奥行がそれぞれ約50センチ、重さ約4キログラム。大きな牙は鹿の角を使っていて、とみられ、迫力ある表情が特徴だ。中の持ち手に「平成八年十月吉日 釜石市小川町 高田正夫作」と書かれている。

改田さんは震災の約2カ月前、同市出身の女性保育士から虎頭を譲り受けた。女性は保育園で虎舞を踊る際に活用していたが、定年退職に伴い「踊れる人に」と改田さんに託したという。

改田さんは東京の民族歌舞団に所属していた時に、同青年会から虎舞を習ったことがあった。震災後、さまざまな公演で虎舞を約30回披露。震災から3年を前に「釜石の方が使うのが良いのでは」と考えた。

持ち主の思いを受け、同青年会の元会長佐々木実さん（49）＝同市鶴住居町の仮設住宅「が」に引き受けた「い」と連絡。以前、高田さん（故人）の虎頭を購入したことがあり、今も交流が続く民族歌舞団を通じて縁にも感じるものがあった。

同青年会前会長で、青年会の虎頭を作った前川智克さん（35）＝同市甲子町＝は、高田さんと一緒に制作したこともあり「高田さんの作品で、震災後に見つかったのも修復できないものもあり貴重に基本設計を策定。実年6月の完成を目指す。施設設計を経て2015年だ」と語る。高田さんの長女広子さん（56）＝同市小川町＝も「作品を通じてつながりが生まれ、地元で活用されたい」と喜ぶ。

同青年会は今後、虎頭を神社に奉納し、お

清波てんてん

題字・山下文男さん



大船渡市大船渡町 上平仮設住宅
田村 節子さんの（82）
震災当時は自宅にいたが、一緒にいた孫娘が車をすく回して目散に逃げた。孫に助けてもらったことは一生忘れられない。親戚や近所に住んでいた友人を津波で亡くし、いまだに心が落ち着かず海岸に近づけない。今は孫たちと離れて一人で生活しているが、少しでも早く家族をそろって暮らしたい。

～被災者からのメッセージ～

黒森神楽見て若返る

宮古市田老 グリーンピア三陸みやこ仮設住宅 山本 フチ子さんの（82）
黒森神楽のグリーンピア三陸みやこ巡行を鑑賞した。子どものころから見ていたので、神楽が来た時には見るようにしている。黒森神楽にも最近、若い人が入り、地域で一生懸命頑張っていると感じている。若い人たちがもっと加入すればいつまでも楽しめるだろう。舞を見ると、自分も若返ったようだ。

家族共に暮らしたい



解決したい」と述べた。全国各地で開いている「地域経済に関する懇談会」として、非公認で開催。陸前高田商工会の阿部勝也会長ら商工関係者10人と意見交換した。

出席者からは人手不足や資材高騰、宿泊施設不足などの課題が取り上げられた。消費税増税に伴う負担増への対応や、グループ補助金の延長などの要望も上がったという。

懇談会終了後、西村副大臣は「人手不足や資材高騰が復興の足を引っ張らないようにしなければならぬ。景気が腰折れしないよう、補正予算を早期に成立させたい」と述べた。

ミッフィーカフェは民営

釜石情報交流センター検討委 市公募計画示す



釜石市中心に整備する釜石情報交流センター建設に向けた運営検討委員会の第1回会合が27日、市役所で開かれ、市側は目玉テナントの「ミッフィーカフェ」を公募による民間事業者の運営とする計画などを示した。

委員8人が出席。委員長に選出された佐々木重雄釜石商工会議所専務理事が「市民に愛され、使い勝手のいい施設にしたい」と

あいつつした。計画によると、ミッフィーカフェはラウンジとつながって子どもたちが遊べる空間とする。市内業者を対象にしたコンテストでオリジナルメニューを決める案も出ている。

同センターや加盟店、隣接する市民ホールなどで使える「地域ポイントカード」を導入。3月開業するイオンタウンを視野に、イオンカードと連携することも検討している。

委員からは「建物、スポットに市民がイメージしやすい名称をつけてはどうか」「高齢者もめくくり過ぎる場所にしてほしい」などの意見が出た。

次回は2月25日に開催。計画では簡易公募型プロポーザル方式で業者を選定し、夏まで

東京五輪 復興示す契機に

政府復興委 達増知事が求める



政府の復興推進委員会に臨む達増知事（右から3人目）＝東京・霞が関

【東京支社】政府の復興推進委員会は27日、東日本大震災からの復興加速や「新しい東北」の創造について議論した。委員の達増知事は、2020年東京五輪・パラリンピックを東北が復興した姿を世界に示す契機とするよう求めた。

達増知事は「東京五輪が復興の妨げにならな

てはならない」と被災地の資材高騰や人手不足に拍車がかかるよう求めた上で、東京五輪までに復興を進め「世界に示すことが必要だ」と発言。16年の岩手国体を「復興の象徴」と位置づけて発信する考えも示した。

被災地で難航する用地取得の対策について、委員会として政府

に働き掛けるよう提案。JR山田線の復旧や国際リニアコライナー（ILC）の日本誘致にも理解を求めた。

同委員会は「新しい東北」の創造に向けて▽子どもの成長を見守る安心な社会▽活力ある超高齢社会▽持続可能なエネルギー社会―など五つの柱を軸に委員や有識者の意見を聞き、3月末をめどに提言をまとめる。

内閣府副大臣に地域支援策要望
陸前高田商工関係者

内閣府の西村康徳副大臣（経済財政政策担当）は27日、陸前高田市高田町の陸前高田商工会で、地元の商工関係者と懇談した。4月の消費税増税の復興支援策への影響に関し「制度面での課題を聞いた。解決できる面は